

薬剤師の理念

内山 充

4月の春を迎えて、今年も新しい薬剤師が誕生する。フレッシュな薬剤師諸兄姉も、経験ある薬剤師諸氏も、年度の初めともなれば、それぞれに新たな意気込みをお持ちのことと思うが、引き続き、質の高い医療と患者の安全を担う薬剤師として、計画的な生涯学習によって職能の向上に努めていただきたい。そして、常にしっかりした「理念」を持っていただきたい。

「理念」とは、この本質を捉える思考の形であり、すべての行動の根本にある基本的考え方である。人間としての社会活動の本質的な拠りどころを、はっきりと把握することである。そして、それは自分の言葉で語り、いつも心にとどめて置くことが肝要である。

個人でも組織・団体でも、その理念は、常に外に向けて明らかにされていなければならない。理念の欠如した人、あるいは組織・団体は、何を考えているのかが分からず、意思のはっきりしない、顔の見えない存在としか見做されない。

理念は各自の考え方であるから、表現の方法や言葉は独自であっても良い。しかし、薬剤師である以上、使命、目標、自己形成、行動原則、能力活用、誓約等、おのずから下記のようにあるべき姿は見えて来るに違いない。自らの理念を堅持して、日々の職務に励んでいただきたいと思う。

【薬剤師の理念】

薬剤師としての専門職能を通じて、社会に奉仕することを使命とする。

人びとを苦しみから救い、安心をもたらす健康に導くことを、薬剤師業務の目標とする。

薬剤師として、あらゆる場面で適切な評価・判断を行える能力・適性を養うために、生涯継続して学習に努める。

倫理的、法規的に最も正しい原則の下で常に行動する。

最適の薬物療法と患者ケアを提供できるよう、知識、技能、経験を生かして最善の努力を尽くす。

上記のことを国民全体から任されている責任をはっきりと認識し、それを決して忘れないことを誓う。

(2009.4.1)